

眠る資源も開発へ

天草に美しい橋がかかり、広い舗装された道路ができていくにつれて（合津―本渡―牛深間は今年の五月に二級国道昇格）時間的にも走行のうえでも便利になり、島と本土との交通量は増大していく。

いままでも船で運ばれていた生産物のうち、特に時間的にいそぐものや、荷いたみ、腐れをきらう鮮魚、新鮮なそさい、果物、花などは、橋を通る

ようになるし、これに誘発され便乗して、他の貨物もこの新しい交通ルートに乗ってくるものがある。

特に期待されることは、架橋の完成につれて天草の交通体系が整備され、それ

にともない、新たな産業立地が生まれ、沿道の地域が開発され、天草の産業構造、特に農業や水産業の生産のしくみが変わる、つまり天草のこれまで眠っていた資源が開発されることにより、交通量が増加することである。

農業は市場へ直結

特に産業の面からみれば、これまで狭い耕地によつて、自給的な家族労働経営を主とする、四分の三の兼業農家がどのような影響をうけるか。

苔北のサヤエンドウ、大矢野のグリーンピーズ、それに寒菊、グラジオラス、金魚草、アイリスなどの花卉、水田早期あとの馬鈴薯、抑制キユウリ、加工用ピーズなどの抑制、促成そさいはいうまでもなく、本渡や牛深周辺のみかんやポンカ

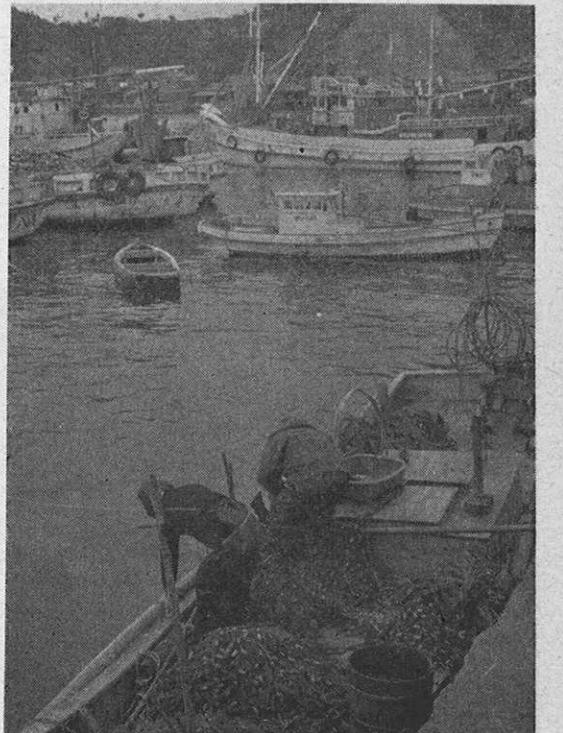
ンなど、北九州や熊本市場に直結することになり、その経済性はおいに増してくるようになる。

それだけに、今後は品質の向上、市場の調査、出荷態勢の強化など、生産、販売両面にわたって、十二分の配慮と努力が望まれるわけである。

大矢野島の酪農牛の生産育成にしても、松坂牛、江州牛に匹敵する良質肉のとれる下島の黒牛、全島に飼われる豚などの畜産物の販売など、商品生産の波は、なかば自給的生産に生きてきた郡民を、いや応なしに資本主義の機構に引きづりこむことになるわけで、それだけに、本土各生産地との競争もはげしくなる一方、天草の特色を十分生かしうる可能性もでてくるわけである。



天草では果樹の新植がさかん。架橋が完成すれば、輸送面のあい路もなくなるわけだ……



水あげした魚は、市場へ直送できるようになる。

すなどりから「作る漁業」へ

一本釣り、のべなわ、さしあみなどの漁法を主とし、少量で市場性に乏しい生産を続けてきた兼業漁業も、現在各地に目ぼえてきたタイ、チヌ、タコの産卵養殖、下島西岸のイセエビの魚礁、御所浦風口のハマチ、大矢野の車エビ、各地の真珠の養殖など、「すなどり」から「作る漁業」への発展を促進することになる。

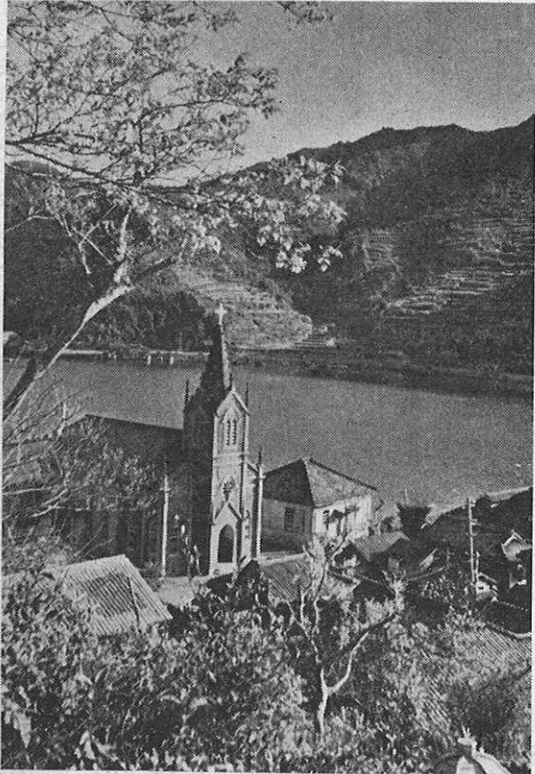
ここには、農業にもましてたくさん資本と進んだ技術があるし、漁業組合を中心とし、観光の発展とも結びつけながらのびていくであろう。

健康な観光地「天草」

年間三十万人台に足ぶみしている天草の観光は、今後どうなるだろうか。

阿蘇、雲仙を訪れた一、二泊行程の観光客が、いつかは訪れたいという希望地が天草であることは、旅行者のアンケートからも明らかである。

いまでは、足の不便さから、ゆつくり



埋もれた観光資源も開発される。

私はこれまで、架橋にともなつて起るであろう楽しい夢を描いてきたが、その半面もあるこ

その半面も見おとせない

ら、オレンジにいろどられたキシタンの島を訪れることは、雲仙―天草―阿蘇というように、海と山を結ぶ絶好の観光コースとなるだろう。それとともに、松島町を中心とした水族館やヨットハーバー、雲仙をのぞんだ美しい砂浜のつづく大矢野島の西岸など、暑さにあえぐ青少年や家族の夏の健康なレクリエーションの場所として絶好であろう。

とを忘れることはできない。つまり、島の自給性が次第に破られ、商業主義が発達するにつれ、富める者と貧しい者の格差は一層はげしくなるし、町や村の浮沈もめだつてくるし、産業の地域的分化も次第にはつきりしてくるだろう。

影響を裏側からみれば

このような産業の変化や観光客の増加につれ、農地は次第に道路の沿線、バスターミナルなどの商業地、住宅地などの非農業的利用に変化し、地価は次第に騰貴していくだろう。投機的にみれば、架橋にともなつて起る経済面の直接的影響は、この地価の騰貴ともいえよう。ひとたび中央からの資本でも入れば、天草の目ぼしい場所は、外来の商業資本によって独占され、